

## 高山病予防詳しく学ぶ

深志高山岳部  
OB会講演会 信大病院・花岡院長が解説

松本深志高校山岳部  
OB会（古幡開太郎会  
長）は6日、松本市中  
央4の市勤労者福祉セ  
ンターで、第17回公開  
講演会を開いた。5年  
ぶりの開催で、OB会  
員の花岡正幸信州大学  
医学部付属病院長が講  
師を務め、高山病につ

いて分かりやすく解説  
した。

講演会には約40人が  
参加した。花岡院長は  
北アルプス常念診療所  
長も務めていて、実際  
にあった男子高校生の  
具体的な高山病の症例  
をもとに話した。

である高地肺水腫は、  
標高2500m以上に  
急速に到達した際に48  
〜96時間で発症すると  
いい、男性に多く、再  
発しやすいことなどを  
挙げた。初期症状に気  
づくためには、普段よ  
り早く疲れてしまうな  
ど「『いつもと違う』

がヒントになる」と助  
言した。

低地に送れば回復す  
るため「ためらわずに  
救助のへりを呼んで」  
と強調し、予防のため  
には、ゆっくり登るこ  
とや事前の高地順応、  
段階的に登ることが大  
切とした。

講演会の冒頭では、

深志高校出身で県山岳  
協会副会長を務め、こ  
のほどパキスタンで登  
山中に亡くなった大西  
浩さんと、物故会員に

黙とうをささげた。古  
幡会長は「大西さんは  
活動にさまざまな協力  
をしていた」と  
感謝した。

（柳 純一）



講師を務めた花岡院長(右)  
に質問する参加者